歯科健康診査に関しては，健診を担う会員はもとより，健診時に行う保護者への情報提供の機会・時間は十分とはいえなかった。そのため保護者からの質問に対して，限られた情報の中で短時間に回答することは難しく，保健所を通しての問い合わせなどが報告されていた。

そこで郡山歯科医師会と連携し，母子歯科保健事業の充実と歯科健康診査の精度向上，保護者への説明内容の統一化を目的に，『乳幼児歯科健診マニュアル』を作成した。

健診の際の注意事項や判断基準の確認，今までの健診では重要視されていなかったインシデントに対する対応策や，健診時に保護者から受ける相談に対する具体的な回答例を提示したマニュアルは，有用であるとの回答が得られた。地域歯科保健事業における乳幼児歯科健診の意義は大きく，適正な診査をもとに，市民に対する正しい情報提供が必要と考えられた。

本学歯学部附属病院小児歯科に紹介された患者数は年々増加傾向にあり，これまで地域歯科医師会と連携を強化してきたことも要因と考えられた。

（結　語）　今後も地域のニーズに合わせて必要な情報を発信するとともに，関係機関との連携を密にして診療面においても地域歯科医療に貢献していきたいと考えている。

9）平成18年度に実施したＰＢＬテュートリアルの概要と評価

○清野　晃孝，釜田　　朗，田代　俊男，影山　勝保[1]
鎌田　政善[1]，齋藤　高弘

（奥羽大・歯・診療科学，歯科補綴[1]）

（目　的）　自ら問題点を的確に抽出し，周囲と協調しながら変化に適切に対処できる人材の育成に教育の重点がおかれるようになった現在，PBLテュートリアルが歯学教育に急速に取り入れられている。そこで当講座では，平成17年度から臨床実習においてPBLテュートリアルを試み，今回は平成18年度の概要とアンケート結果を報告した。

（方　法）　平成18年度に実施したPBLの概要として，対象は５学年の91名であり，時間帯は月曜日から金曜日の午前10時から正午までの２時間とした。１グループは６人から８人とし，各グループは週に１回，３週連続で，合計３回実施した。３回目には症例発表会を行い，アンケートを記載後，テュートリアルノートを提出させた。１グループに対してテューターは固定しなかった。

アンケートの内容は，実習方法，内容の質，内容の量，シナリオ，グループ学習の時間，グループ討議の時間，自習に費やした時間，グループ討議への参加程度，テューターの介入度，学習効果の10項目についてであり，それぞれ５段階の評価として記入してもらった。

（結果と考察）　平成18年度の第５学年を対象としたPBLテュートリアルは，学習効果について学生からよい評価を得た。シナリオは興味深く受け止められたが，自学自習の目的意識を高めることについては不十分であった。グループ討議の時間が１回２時間，３週連続のプログラムは，時間が長いとの意見も多く，学生の積極性に欠ける部分も伺えた。平成19年度は教務日程に組み込まれたPBLテュートリアル教育の構築がすでに図られており，特に臨床系講座の教員の取り組みと対応が直接，教育効果に影響するものと考える。

10）歯学部1年生におけるミラーテクニック体験学習の有用性
ー平成17年度および平成18年度の比較ー

○田辺　理彦，東田　大輔，秋葉　祐輔，笹原　麻美
中島　大誠，森下　浩江，佐藤　穏子，今井　啓全
佐々木重夫，天野　義和

（奥羽大・歯・歯科保存）

（緒　言）　我々は奥羽大学歯学部１年生の附属病院体験学習の中で将来歯科医師になるための自覚と認識を高めさせる目的で日常生活において慣れ親しんでいる鏡に関連したミラーテクニックの体験学習を行ってきた。今回は平成17年度および平成18年度の比較した。

（方　法）　本学歯学部１年生（平成17年度：91名，平成18年度：89名）を対象に総合歯科第１診療室医局および診療室において行った。学習内容は①体験学習前質問紙調査（プレアンケート：３項目）。②鏡の特性と歯科診療におけるミラーテクニックの意義に関する講義（術者の診療姿勢や